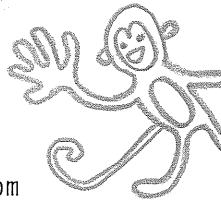


ねがいのいえニュース 第6号

生活支援ハウスねがいのいえ広報紙・2004年12月27日発行
発行責任者：藤本真二 〒331-0071 さいたま市西区高木 185-29
Tel (048) 626-1909 Fax (048) 626-1920
E-mail negainoie@r6.dion.ne.jp Hp <http://www.negainoie.com>



今年もまたあわただしい年末がやってきましたが、みなさまお元気にお過ごしでしょうか。昨年の今ごろはまだまだ赤字続きだったねがいのいえですが、みなさまの応援を受けながら今年1年がんばることができました。無事に新しい年を迎えられることを感謝もうしあげます。

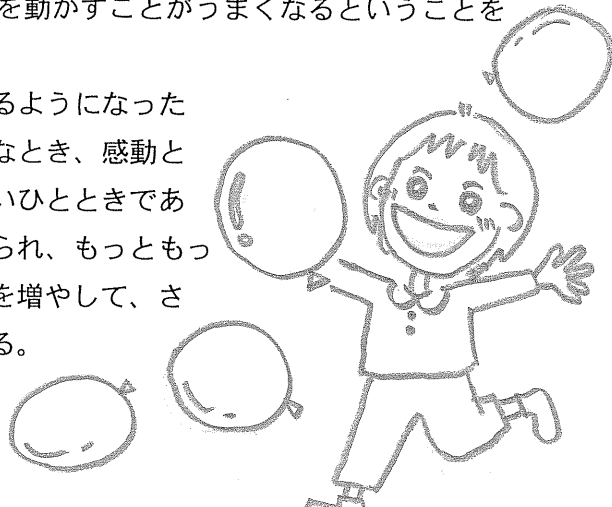
1年を振り返ると、利用者のみなさまにおわびしなければならないことが数々あった一方で、日々の活動は徐々に形を整え、やってくるお子さんたちには、毎日をあきらめことなく楽しく過ごせていただけたのではないかと思います。

10月からは、独立行政法人福祉医療機構からいただいた助成金200万円を使い、各教室の活動を始めることになりました。また、埼玉県からの助成金36万円を使って、休日のイベントを行なうことになりました。これによって飛躍的に変わった活動の様子を報告いたします。

☆ スポーツ教室 ☆

障害児者の心と体を発達させるムーブメントのプログラムを行なっている。理論のベースには、「脳は楽しいと感じるときに発達する」という考え方があり、横浜国大で実践されているプログラムには、子供たちが思わず入りたくなってしまいうまくてファンタジックな仕掛けが満ちている。そのプログラムをモデルにして、リズムに合わせて動いたり、いろいろな動きをすることで、自分の体を感じ、体を動かすことがうまくなることを目指す。

はじめはうまくできなかった動きが上手にできるようになったとき、子供たちが嬉しそうな表情を見せる。そんなとき、感動と喜びをみんなが感じる。短い時間だがとても楽しいひとときである。スタッフたちもムーブメントの楽しさに魅せられ、もっともっと勉強したがっている。年明けからはさらに道具を増やして、さらにバラエティに富んだプログラムを計画中である。



☆ 水泳教室 ☆

障害児者への指導に豊富な経験を積んでこられた大貫映子先生をお迎えしての水泳教室。単なる泳法の指導にとどまらず、水中でのムーブメントを実践される大貫先生の教室は、プールの中でファンタジックな運動を展開される。スタッフからは毎週感動の報告が届く。

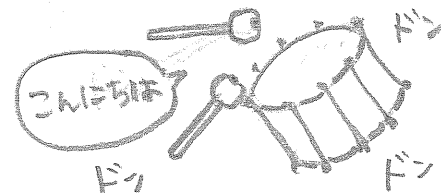
泳ぐ形をどんどん身につけてゆく子。楽しくて笑顔の絶えない子。最後に「ありがとう」と言ってくれた子。

事前学習として水中ムーブメントの講習会を体験したスタッフたちからは、来年はぜひ、もっと大勢の利用者のみなさまにこのプログラムを体験していただけるよう、プールを借り切って体験会を主催したいという声が上がっている。



☆ 音楽教室 ☆

7月からスタッフとしてやってきた本郷佳子を講師として行なっている。歌・手遊び・楽器演奏などの練習を毎週続ける中で、リズムのととり方やあいさつの言葉などを、少しずつ身につけてゆく子供たちの姿がある。参加されるお子さんのご家族からは、帰ってきたときの顔が本当に楽しそうで、その日一日気持ちよく過ごせているというお話もうかがい、スタッフ一同、嬉しい思いでいっぱい。



☆ 休日イベント ☆

障害者を抱えるご家族にとって、放課後活動と並んで課題となる休日の過ごし方に、楽しいひとときを提供したい、そしてそれは、何ヶ月もかかって準備する年に1回の大きなイベントではなく、毎月恒例の気楽なものであってほしい。それがこのイベントの方向である。10月からすでに3回のイベントが実施された。

横浜国大から先生をお招きし、ムーブメントのプログラムを実践していただければ、みなさまにその素晴らしさを体験していただけるのと同時に、勉強したがっているスタッフにとって何よりの研修となり、日々の活動に活かされていくことだろう。

その目的どおり、毎回たくさんの道具を運んできては惜しげもなく様々な遊びを披露してくださる先生方は、本当に素晴らしい。こだわりの強い自閉症のお子さんも、いつの間にかその渦の中に取り込まれ、笑顔になって中心に居座っている。

大型パラシュートのまん中で、たくさんの風船の海の中で泳いでいた男の子。大きな布に寝たまま宙に浮き、ゆらゆらと揺れるその気持ち良さに笑顔を見せていた子。兄弟のお子さんたちは元気に走り回り、盛り上げ役を担っている。慣れないボランティアの方たちも楽しんでいた。

そして後半では、大道芸のプロによるパフォーマンスの時間。パントマイム・マジック・曲芸などを笑わせながら見せてくださるその時間は、



ご家族のほう喜んでらっしゃるようである。

障害児者のご家族にとって、ライブの演技をゆっくり見る機会を持つのが難しいことは容易に想像できる。そんなみなさまに、まわりを気にせず楽しめる機会を提供できたら嬉しいことである。同時に、ライブの場でじっくり座っているのが難しい障害児者の方たちも、たとえ数分でもいいし、動きながらちらりとでもいいから、みんなと同じ場において、みんなと同じものを見て楽しむという経験をさせていただきたい。じっとしていらなくてもいい。その場数を気がねなく経験できる場所として利用させていただきたい。

それがこのイベントに込められた願いである。

そして回を重ねるごとに、みんながいい表情になっていると感じている。まだ参加されたことのないみなさまも、ぜひ来ていただけることを祈っている。

そして1月には、最高のゲストをお招きすることが決まった。98年に大道芸の世界チャンピオンに輝いたそのゲストのパフォーマンスは、はじめから終わりまで温かい笑いに包まれ本当に素晴らしい。みなさまに一番お見せしたいと思っていた芸である。

第4回休日イベント

1月30日(日) 14時から 与野本町コミュニティセンター小ホールにて
大勢の参加をお待ちしております。ボランティアも募集。中高生大歓迎。

心を支えるねがいのいえのケア

先日相談に来られたご家族の方と雑談になり、いろいろなお話をした。働きながらお子さんを育てている母子家庭のお母さんである。

養護学校の放課後、普通の学童保育に通うそのお子さんが、学童のお盆休みだった日に、3日間ねがいのいえに朝から来て過ごされた。3日間が過ぎ、また学童へ行くと言うと、ずっとねがいのいえに行けると思っていた彼女は怒り出してしまったという。「ねがいのいえでの3日間がよほど楽しかったようです」とお母さん。

民間の学童保育はみな、限られた予算の中で少ない人手で日々がんばっているはずである。そしてそんな中で障害児を受け入れるというのは、困っている方を支援したいという強い思いを持った場所であることも想像できる。しかしやはり、少ないスタッフで大勢の児童を見なければならぬ通常の学童保育と、ほとんどマンツーマンに近い体制で子供たちに向き合うねがいのいえとでは、障害を持つお子さんにとっての過ごし方に差があるのは当然のことであろう。

そこでお母さんは「社会には居心地のいい場所ばかりあるわけではないと思います。ねがいのいえがいい場所なのはわかっていますが、そんな場所に慣れてしまったら、他の世

界にいられなくなるのではないかという心配があるのですが」という率直な意見を話してくださいました。

そこで答えた。

「ねがいのいえをなぜこんなにみんながいい場所だと思ってくれるのか。」

もちろん私たちは毎日、ひとりひとりの持っている希望に答えようとしています。電車の好きな子は電車に乗ります。プールの好きな子はプールに行きます。買い物の好きな子はお店に行きます。しかし、希望をすべてかなえれば、その子はすべてが満たされるでしょうか？

まずひとつには、障害を持つ人の希望をすべて理解することができるかという問題があります。この子はこういうものが好きだという思いは、その子を見るまわりの人が考えていることであって、100%本人の気持ちと一致しているということはありません。

ふたつめの問題は、ではたとえば何らかの方法で希望をすべて理解し、それをひとつひとつかなえてあげれば、その子の心は完全に満たされるのだろうか、という問題です。

どれだけ希望をかなえても、障害を背負う悲しみはいつも心の中に残しながら生きて行く、それが障害者の人生です。その悲しみをどれだけ支えられるのか。それが私たちの仕事なんだと思っています。

だから私たちは、彼らがすべてを理解していると信じて、あらゆる場面で語りかけます。小さなことでもうまくできた時には一緒に喜び、うまくいかなかった時には抱きとめます。そして、学校やいろんな場所で傷つくことがあったとしても、ねがいのいえへ行けばすべてを受け容れてくれる人がいる、ということを知ってもらいたいと思っています。たとえ一般の社会がみんなにとって厳しい世界であったとしても、どこかに自分を支えてくれる人がいるという思いが、その人の心を支えるのだと思っています」

それを聞いたお母さんの顔から不安が消え、「本当にそのとおりでと思います。それを聞いて安心しました」と話された。

ねがいのいえでは、必修としている心のケアの方法をスタッフ全員が学び、毎日の生活の中で必要な時にいつでも実践している。ご家族の方にはお子さんの取り組みについて個々にお伝えし、関心を持たれたご家族が見学に来られることもよくある。ねがいのいえはすべてオープンなので、いつでも来てくださっていい。すべてのご家族にとって知りたいところなのではないかと思う私たちの日々の取り組みを、公表してよい範囲内でこれからも紹介していこうと思っている。

来年もみなさまの応援を支えにしながらがんばってゆきたいと思っています。これからもよろしくお願いします。

